【2024年度奨学生のご紹介／上半期レポート(2024年6月時点)】

荒木 美優 15歳

「現在ロイヤル・バレエ・スクールの ロウワースクールである ホワイトロッジの最終学年に所属しています。2月に アッパースクールへの進学オーディションがありましたが、例年合格率はとても低く、また私たちの学年はとても上手な子たちが多く揃っていると常々先生方からの評価も聞いていたことから、合格するのは容易ではないと腰を据えて一年以上前から真剣にオーディションに向けて取り組んできました。 オーディションが近づくにつれ、それまで仲の良かった友人関係も少しずつギスギスとしてくるのを感じました。仲間でもあり、ライバルでもある、という事実を改めて突き付けられた気がしました。そんな環境で平静を保つのは難しく、毎日のように涙を流しては両親に電話をかけていました。何より、一番メンタルが辛い時期に熊川財団奨学生に選んでいた だいたと報告を受け、どれほど励まされたか分かりません。遠く離れたイギリスで孤独に戦っていたつもりになっていましたが、私はなんて恵まれているんだろうと、感謝の気持ちでいっぱいになりました。 オーディションは長く辛いイベントでしが、結果合格することができ、振り返ってみると私にとって人間として成長できた素晴らしい経験となったように感じます。

合格通知を得た後は、アッパースクールに行っても恥じない自分でありたいと、日々の生活を見直し、どうしたらさらに上達できるのかを改めて考えました。思い起こせば、コンクールに出始めたころから、目をそらしたくなるような自分の欠点という現実といつも向き合うことを続けてきました。これからもダンサーとして生きていくなら、この作業がずっと続いていくのだと、自分の中である意味覚悟のようなものが新たに決まったように思います。

また、ご支給いただいた奨学金で、6月 22 日 ロイヤル・アルバート・ホールで開催予定の English National Ballet「白鳥の湖」、そして6月2日に ロイヤル・オペラ・ハウスで行われた The Royal Ballet「Winter's Tale」のチケットを購入することができました。また、物価高騰で食費が厳しい状態でしたが、奨学金で少し高くても身体に良いものや和食を購入できるようになりました。多大なご支援をありがとうございます。 」

福間　悠陽　14歳

「僕は、奨学生に選ばれ現在様々なことに挑戦できています。
この半年で国内のコンクールに、2 度出場して、どちらも 1 位を受賞しました。 全日本バレエコンクールの予選会も兼ねたコンクールであり、8 月に出場が決まりました。この夏は、良い成績を残すことが目標です。
奨学金でコンテンポラリーのワークショップを受講することもできました。即興の練習などもでき、自分の中の動きを増やすことが、とても新鮮でした。 また音楽を聞くことが大切であり、それが動きの緩急につながることや、2 分のヴァリエーションの中で 1 つ 1 つの動きの意味を掘り下げていくことの課題をもらいました。
普段のレッスンの中で筋トレなども取り入れてもっと力強い踊りができるようにしていきたいです。
そして今年はローザンヌ国際バレエコンクールのアジア予選が開催されます。それに向けてビデオ動画 を送りました。これに通過し、奨学金でスイスの本選に行きたいです。 感謝の気持ちを忘れずに、日々のレッスンを真剣に取り組み、引き続き精一杯頑張ります。新たな課題をみつけたのでローザンヌ挑戦までに克服します!」
（この後、福間くんは9月に出場したローザンヌ国際バレエコンクールのアジア予選で上位4人に選ばれ、来年2月にスイスで開催される本選への出場権を獲得しました）

秋田 瑛汰 14歳

「僕は2024年4月に YAGP（ユース・アメリカ・グランプリ）のニューヨークファイナルに出場し、３位に入賞することができました。
このコンクールに向けて、日本で基礎を磨くことはもちろん、回転やジャンプなどの難しい技に挑戦し、上半身の使い方をプロの動画を見て学びました。自分の中でタリスマンというキャラクターを観客の皆さんに伝えられるよう一生懸命努力したので、今回の結果を受けてとても嬉しかったです。
コンクールの期間中、様々なバレエ学校の先生方のレッスンを受けることができました。色々な視点から注意をいただき、自分では気づけなかったことに気づくことができました。クラスレッスンではそれぞれ個性を持った同年代の方々と一緒にレッスンをして、とても良い刺激になりました。
僕はより一層基礎を強化しなければならないと思ったので、これからも重点的に努力したいと思います。あの貴重な期間で得ることができたことを無駄にせず、より良い踊りができるよう、頑張りたいと思います。奨学金を得てまた多くの先生方の教えを受ける機会が増えると思うので、とてもありがたいと思っています。 」